



三菱UFJ証券ホールディングス

2023年3月期 決算説明資料

三菱UFJ証券ホールディングス株式会社

2023年4月

・ 連結決算ハイライト	P 2
・ 業績の推移	P 3
・ 連結決算サマリー	P 4
・ 業務別概要	P 7
・ 2022年度トピックス	P 8

Appendix

・ 連結業績推移	P 9
・ 連結貸借対照表の状況	P 10
・ 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(MUMSS)の状況	P 11
・ auカブコム証券・海外現地法人の状況	P 14
・ 【ご参考】国内証券会社の状況	P 15
・ 財務基盤関連指標(格付・自己資本規制比率)	P 16

注)本資料掲載情報は、本頁以降、特段の追記がなければ表示単位未満は切捨て記載しております。
また、海外拠点の決算日は連結決算日と3ヶ月異なるため、累計業績推移は1～12月、四半期業績推移は10～12月の実績となります。

年間業績推移

- 財務ベース業績は、純営業収益 3,522億円(前期比+14%)、経常損益 845億円(同+75%)、親会社株主に帰属する当期純損益 448億円(同+160%)
MUSAを含む実質ベース業績では、純営業収益 4,170億円(同+7%)、経常損益 856億円(同+27%)、親会社株主に帰属する当期純損益 457億円(同+44%)
前年度第1四半期に計上した米国顧客との取引に起因した損失(約△296億円)が剥落し、財務・実質ベースともに増収増益
尚、この影響を除くと、財務ベースは増収増益、実質ベースは増収減益
- 国内拠点は、インベストメントバンキング業務が発行市場規模縮小により苦戦、国内営業は相場不透明感から投信販売額等が減少も、グローバルマーケット業務が相場変動局面を捉え増収となり、純営業収益は増収。一方、業績連動による取引関係費の増加で減益
- 海外拠点は、米国顧客との取引に起因した損失が剥落し大幅増収も、キャピタルマーケット業務を中心に苦戦

(単位: 億円)	財務ベース			MUSAを含む実質ベース(※)		
	2022年3月期	2023年3月期	前期比 増減率	2022年3月期	2023年3月期	前期比 増減率
純営業収益	3,081	3,522	+14%	3,867	4,170	+7%
販売費・一般管理費	2,851	2,977	+4%	3,436	3,588	+4%
経常損益	480	845	+75%	674	856	+27%
親会社株主に帰属する当期純損益	172	448	+160%	317	457	+44%

四半期業績推移

- 四半期業績は、財務ベース、実質ベースとも前四半期比減収増益
- 国内拠点は、グローバルマーケット業務のうちフィクストインカム業務が最高益を計上し、増収増益
- 海外拠点は、フロープロダクツ業務とストラクチャード・ソリューション業務が前四半期比では下振れ

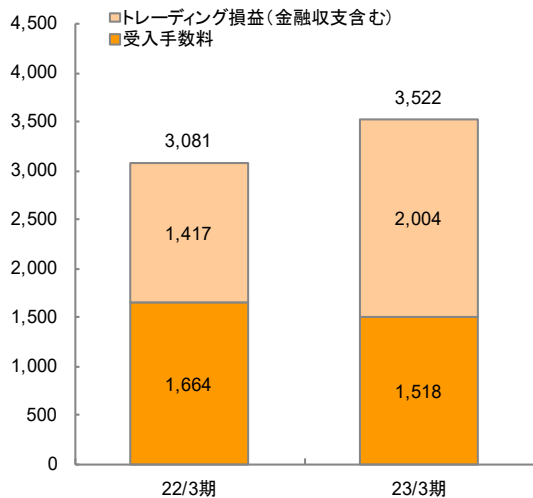
(単位: 億円)	財務ベース			MUSAを含む実質ベース(※)		
	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	前四半期比 増減率	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	前四半期比 増減率
純営業収益	941	941	△0%	1,145	1,048	△8%
販売費・一般管理費	774	762	△1%	952	875	△8%
経常損益	185	314	+69%	202	297	+46%
親会社株主に帰属する当期純損益	101	158	+55%	115	145	+26%

2 ※ MUFGセキュリティーズアメリカ(MUSA)は、2017年3月期3Qより米国ブルデンシャル規制対応のため当社の連結対象外となりましたが、社内収益管理は引き続き同社を含めて行っているため、合算ベースを記載しております。

年間業績推移

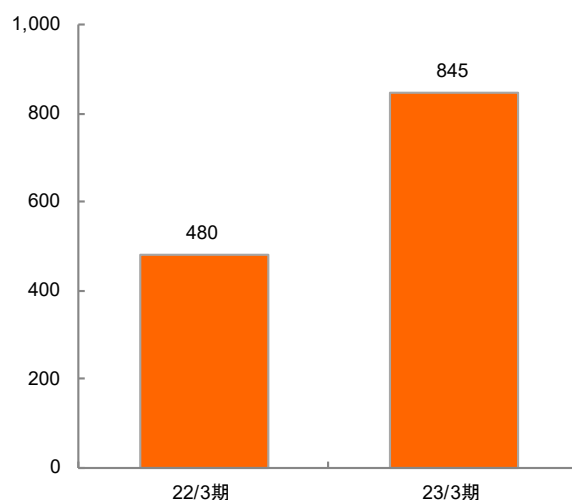
純営業収益

(単位: 億円)



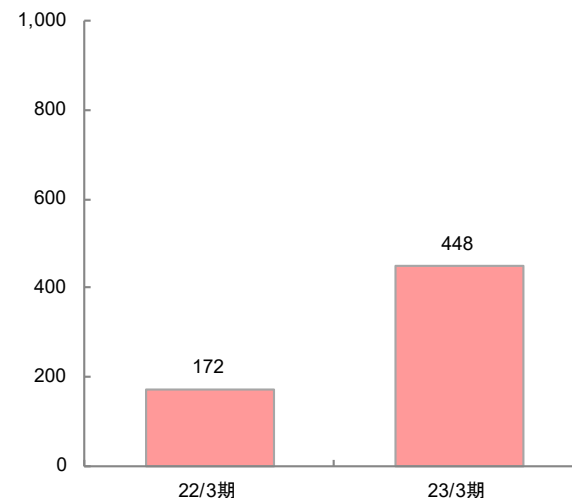
経常損益

(単位: 億円)



親会社株主に帰属する当期純損益

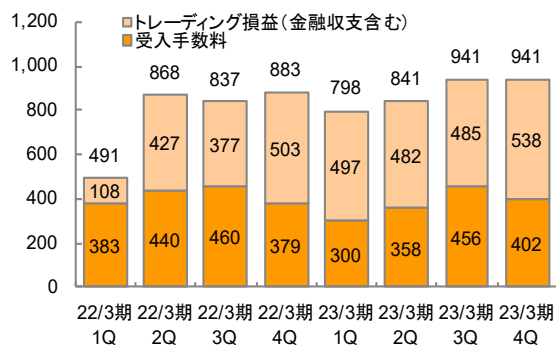
(単位: 億円)



四半期業績推移

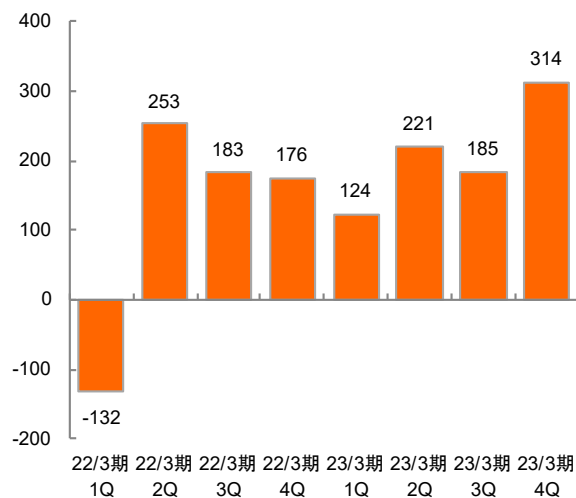
純営業収益

(単位: 億円)



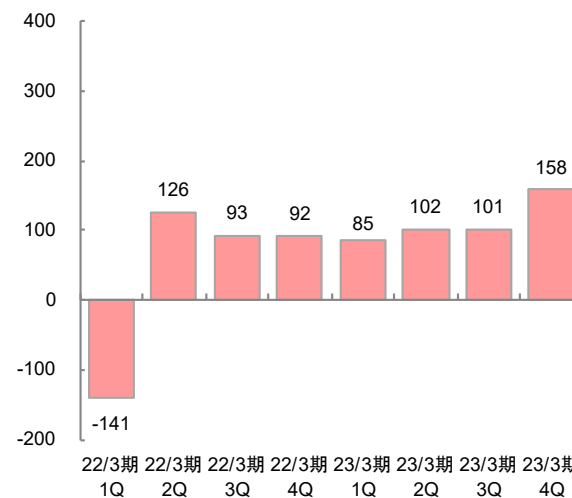
経常損益

(単位: 億円)



親会社株主に帰属する当期純損益

(単位: 億円)



受入手数料

2023年3月期実績: 1,518億円

■ 前期比 △145億円 (△8%)

- 委託手数料: 不透明な株式市況を背景に減収
- 引受・売出手数料: 金利上昇と株価の不透明感から、発行市場規模縮小の影響が大きく減収
- 募集・売出手数料: 相場要因から株式投信販売額が減少
- その他受入手数料(受益証券): 株式投信を着実に積み増し増収
- その他受入手数料(その他): 大型のM&A案件とソリューション案件の成約が寄与し増収

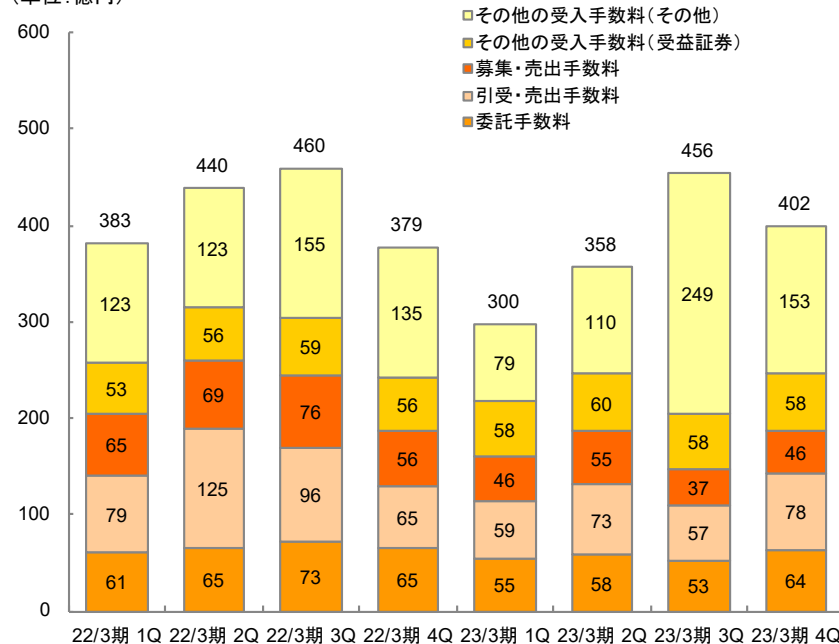
第4四半期実績: 402億円

■ 前四半期比 △53億円 (△11%)

- 引受・売出手数料: 複数の引受案件積み上げにより復調
- その他受入手数料(その他): 前四半期の大型案件の剥落で減収

推移

(単位: 億円)



(単位: 億円)	2022年3月期	2023年3月期	前期比増減率
委託手数料	266	232	△12%
引受・売出手数料	366	268	△26%
募集・売出手数料	267	186	△30%
その他の受入手数料(受益証券)	225	236	+5%
その他の受入手数料(その他)	537	594	+10%
合計	1,664	1,518	△8%

2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	前四半期比増減率
53	64	+19%
57	78	+38%
37	46	+24%
58	58	+0%
249	153	△38%
456	402	△11%

2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	前四半期比増減率
53	64	+19%
57	78	+38%
37	46	+24%
58	58	+0%
249	153	△38%
456	402	△11%

トレーディング損益・金融収支

2023年3月期実績: 2,004億円

■ 前期比 +586億円 (+41%)

- エクイティ業務
 - 国内拠点: エクイティデリバティブや外国株式が年間通じて苦戦し減収
 - 海外拠点: 米国顧客との取引損失影響が剥落し増収
- フィクストインカム業務
 - 国内拠点: 国債入札関連フロー取込みや、金利上昇局面でのポジション運営によりレートを収益を牽引し、過去最高益を計上
 - 海外拠点: レートは復調したものの、クレジット・MBS等の不調により減収

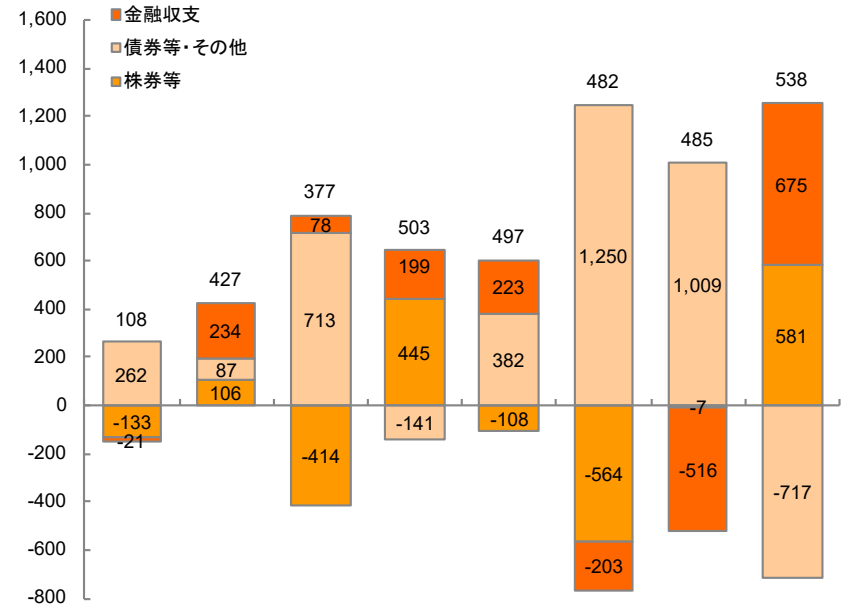
第4四半期実績: 538億円

■ 前四半期比 +53億円 (+11%)

- エクイティ業務
 - 国内拠点・海外拠点とも苦戦継続
- フィクストインカム業務
 - 国内拠点: 日銀のYCC運用見直し以降のボラタイルな環境下、最高益を計上
 - 海外拠点: レートやストラクチャード・ソリューションが減速

推移

(単位: 億円)



22/3期 1Q 22/3期 2Q 22/3期 3Q 22/3期 4Q 23/3期 1Q 23/3期 2Q 23/3期 3Q 23/3期 4Q

(単位: 億円)	2022年3月期	2023年3月期	前期比 増減率
株券等	4	△98	—
債券等・その他	922	1,924	+108%
金融収支	490	178	△63%
合計	1,417	2,004	+41%

2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	前四半期比 増減率
△7	581	—
1,009	△717	—
△516	675	—
485	538	+11%

2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	前四半期比 増減率
77	68	△10%
258	342	+32%
335	411	+22%

【ご参考】管理会計ベース(※)

エクイティ業務	325	325	△0%
フィクストインカム業務	768	1,091	+42%
合計	1,094	1,417	+29%

77	68	△10%
258	342	+32%
335	411	+22%

77	68	△10%
258	342	+32%
335	411	+22%

※MUMSSとMUSAを含む海外拠点の管理会計ベース計数を単純合算して記載しております。

販売費・一般管理費

2023年3月期実績: 2,977億円

■ 前期比 +126億円 (+4%)

- 国内拠点: 大型案件成約等に伴い取引関係費が増加したものの、固定費は抑制運営を継続、不動産関係費や減価償却費等が減少
- 海外拠点: 為替影響に加え、インフレにより人件費等が増加

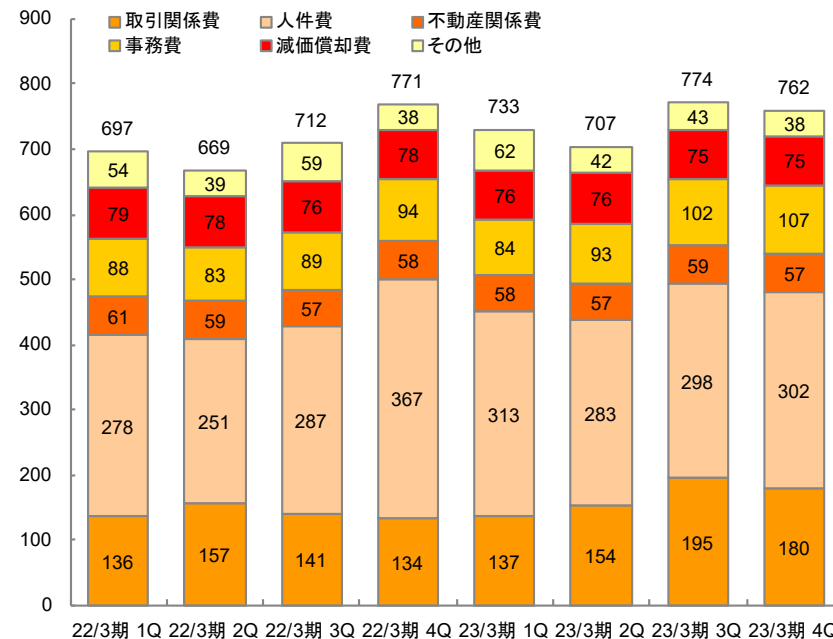
第4四半期実績: 762億円

■ 前四半期比 △12億円 (△1%)

- 前四半期の大型案件に連動した取引関係費が剥落し減少

推移

(単位: 億円)



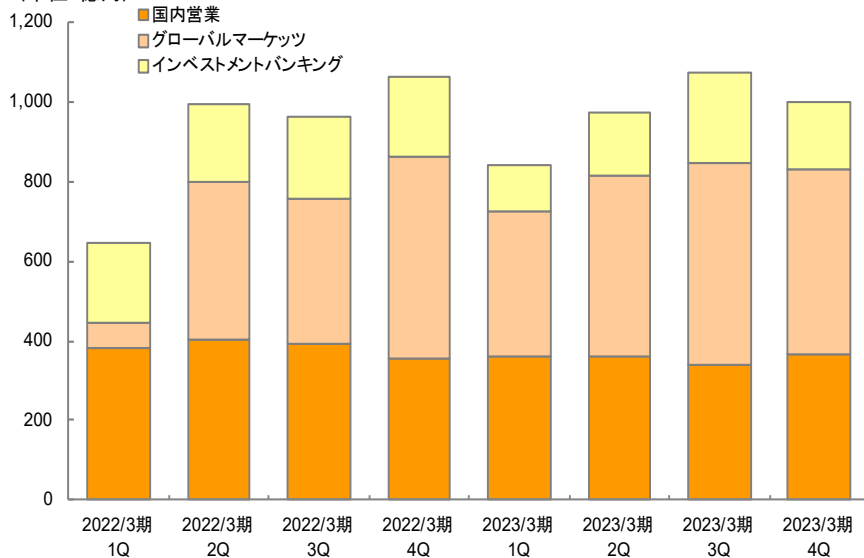
(単位: 億円)	2023年3月期			前四半期比		
	2022年3月期	2023年3月期	前期比増減率	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	増減率
取引関係費	569	667	+17%	195	180	△7%
人件費	1,185	1,198	+1%	298	302	+1%
不動産関係費	236	233	△1%	59	57	△3%
事務費	355	387	+9%	102	107	+4%
減価償却費	313	303	△3%	75	75	+0%
その他	190	186	△2%	43	38	△12%
合計	2,851	2,977	+4%	774	762	△1%

業務別概要(第4四半期実績)

- グローバルマーケットは前四半期に続いて堅調に推移し、国内営業は増収の一方、インベストメントバンキングは減収
- 国内営業：不透明なマーケット環境下、アドバイザリー型ビジネスモデルの浸透により、ストック資産が着実に積み上がり業績に寄与、前四半期比増収
- グローバルマーケット：海外拠点はフロープロダクツ業務が下振れ。一方、国内拠点はフィクストインカム業務が日銀のYCC運用見直し以降のボラティルな環境下、ポジション運営奏功と顧客フロー取込で過去最高益を計上
- インベストメントバンキング：国内拠点・海外拠点とも減収。国内拠点は債券引受・株式引受が復調も、前四半期の大型M&A関連収益が剥落、海外拠点は債券発行市場の低迷を背景に苦戦が継続

推移

(単位: 億円)



※MUSAを含む管理会計ベースで記載しております。

ESGの推進

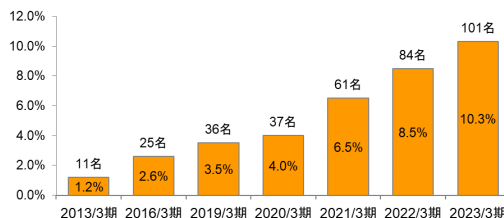
- ESG債の引受け
 - ・ MUMSSにおける2022年度引受実績
グリーンボンド40件/1,103億円、ソーシャルボンド57件/2,732億円、サステナビリティボンド26件/1,470億円、トランジションボンド19件/556億円、サステナビリティリンクボンド11件/563億円、トランジションリンクボンド2件/540億円
- ESGのジョイントレポートを発行 (MUMSS × MSMS)
 - ・ ESGにおける日本の独自の歩みについて両社協力のもと分析を実施、レポートを共同執筆
- ETN残高に連動した寄付プログラムを開始
 - ・ 投資家の「スマートESG30」シリーズ3銘柄の保有残高に連動し、ESG関連団体に毎年寄付する枠組みをスタート

ダイバーシティ推進の取り組み

※集計対象：MUMSS

- 女性活躍の推進：女性管理職比率※ 10.3%（2023年度目標は13%）

女性管理職比率 (ポスト任用者)



- 男性の家事育児参画の推進：男性社員の育児休業取得率※ 100%
- 外部機関からの評価



プラチナくるみん：子育てサポート企業として認定取得
(厚生労働省)



PRIDE指標「ゴールド」：LGBTQ等のマイノリティへの支援
(任意団体work with Pride)・理解促進の取組みに最高評価



トモニン：仕事と介護の両立企業として認定取得
(厚生労働省)

金融経済教育への取り組み

- 小学生から大学生、社会人を対象に金融経済プログラムを展開。次世代を担う子どもたちへのプログラム提供を通じて社会に貢献する方針
 - ・ 小学生向けプログラム「お金の力-VALUE-」の提供を開始
 - ・ 中学生・高校生を対象とする新プログラムを開発、2023年度より提供予定
 - ・ 豊島岡女子学園中学校・高等学校をはじめとする複数の中学、高等学校を中心に連携協定を締結
 - ・ 自治体との連携協定を締結(愛知県愛西市)



従業員への還元の取り組み

- 2022年度は賞与水準を引上げ
- 2023年度は特別昇給と一時金の支給を実施
 - ・ 月例給の引上げ率：実質5%程度(定期昇給・昇格・登用含む)
 - ・ 2年通算年収増加率：2021年度比実質10%程度
- 2024年度より、初任給を12,000円引上げ、267,000円に
- マルチステークホルダー方針を公表

デジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組み

- 経済産業省より「DX認定事業者」の認定を取得
- 世界最大級のメタバースイベント“バーチャルマーケット”に出店(HIKKY社主催)



各種アワード等

- 「EUROMONEY」誌主催“グローバルプライベートバンキングアワード”で“日本のベストプライベートバンク”を11年連続受賞
- J.D.パワー社主催“個人資産運用顧客満足度<対面証券部門>”において第1位
- 投資銀行業務でも各種アワードを受賞(Appendix参照)

単位：百万円

累 計

	2022年3月期	2023年3月期
営業収益	351,282	492,807
受入手数料	166,415	151,850
トレーディング損益	92,630	182,567
その他の営業収益	4	4
金融収益	92,232	158,384
金融費用	43,156	140,549
純営業収益	308,126	352,257
販売費・一般管理費	285,106	297,741
営業損益	23,020	54,516
営業外収益	26,505	35,422
営業外費用	1,442	5,397
経常損益	48,083	84,541
特別利益	132	1,191
特別損失	1,410	2,748
法人税等	10,585	14,851
非支配株主に帰属する当期純損益	19,009	23,331
親会社株主に帰属する当期純損益	17,211	44,802

四 半 期

2022年3月期				2023年3月期			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
69,015	92,233	94,276	95,756	86,759	130,330	198,810	76,906
38,337	44,068	46,050	37,959	30,070	35,865	45,654	40,260
12,944	19,331	29,889	30,464	27,413	68,589	100,201	△13,637
3	0	—	—	4	0	—	0
17,730	28,833	18,336	27,331	29,271	25,875	52,954	50,283
19,839	5,426	10,484	7,405	6,899	46,213	104,653	△17,216
49,175	86,806	83,792	88,351	79,860	84,116	94,157	94,123
69,768	66,924	71,220	77,192	73,311	70,725	77,499	76,203
△20,592	19,881	12,572	11,158	6,548	13,390	16,657	17,919
7,765	5,427	6,090	7,221	7,046	9,881	3,956	14,538
402	△48	331	757	1,122	1,159	2,094	1,020
△13,229	25,357	18,331	17,622	12,472	22,112	18,519	31,436
—	126	—	5	0	123	954	114
38	380	940	50	520	5	1,491	730
△2,821	6,473	4,316	2,616	33	5,008	4,736	5,072
3,667	5,950	3,724	5,666	3,397	6,966	3,059	9,907
△14,114	12,680	9,350	9,294	8,520	10,254	10,186	15,840

単位：十億円

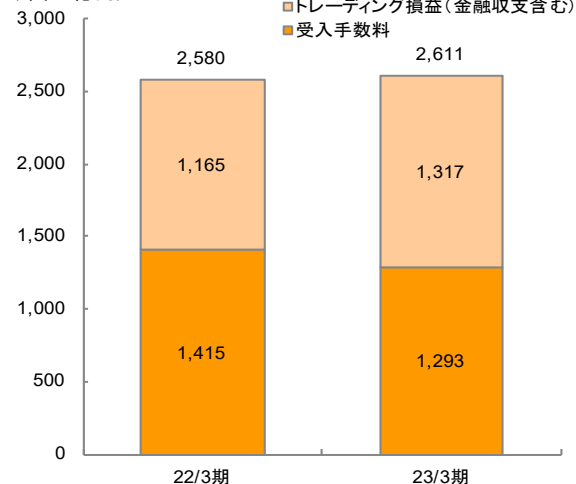
	2022年 3月末	2023年 3月末	増減額
資産の部			
流動資産	31,164	31,800	+635
現金・預金	2,186	2,866	+680
トレーディング商品	12,870	11,936	△933
有価証券担保貸付金	13,227	13,954	+727
その他	2,880	3,041	+161
固定資産	560	659	+98
有形固定資産	26	24	△2
無形固定資産	101	109	+7
投資その他の資産	432	525	+93
資産合計	31,724	32,459	+734

	2022年 3月末	2023年 3月末	増減額
負債の部			
流動負債	28,835	29,509	+673
トレーディング商品	10,432	12,412	+1,979
有価証券担保借入金	10,702	8,552	△2,150
短期借入金	2,874	4,451	+1,576
その他	4,826	4,092	△733
固定負債	1,879	1,904	+25
社債	896	841	△55
長期借入金	964	1,046	+81
その他	18	17	△1
負債合計	30,720	31,418	+698
純資産の部			
株主資本	722	742	+19
その他の包括利益累計額	△1	8	+9
非支配株主持分	283	289	+6
純資産合計	1,004	1,040	+35
負債・純資産合計	31,724	32,459	+734

年間業績推移

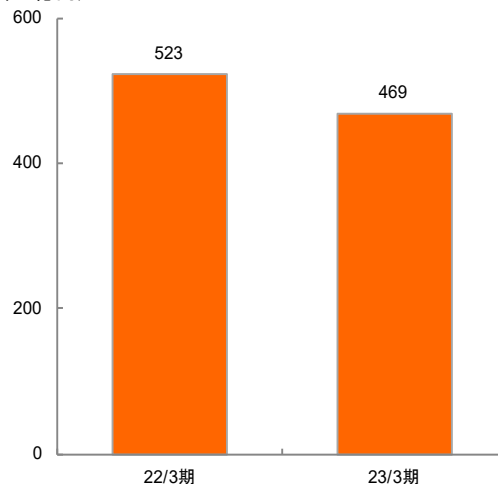
純営業収益

(単位:億円)



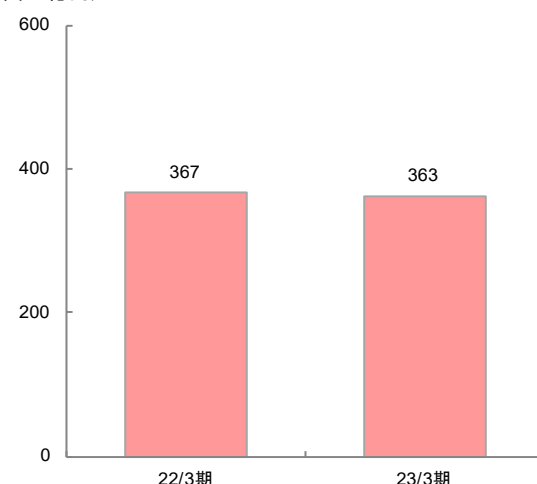
経常損益

(単位:億円)



当期純損益

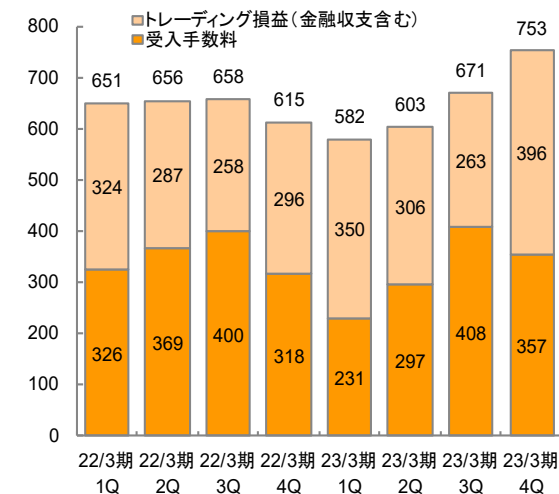
(単位:億円)



四半期業績推移

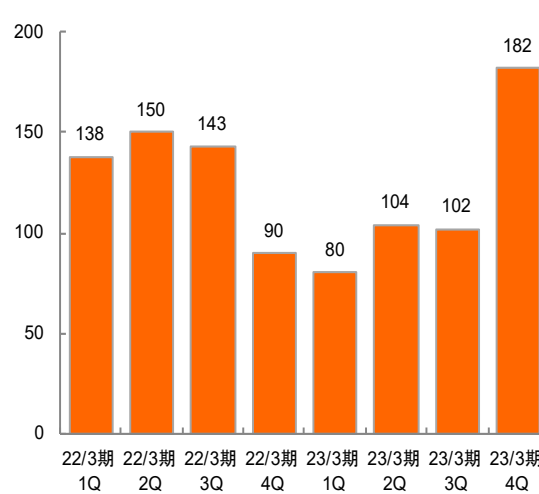
純営業収益

(単位:億円)



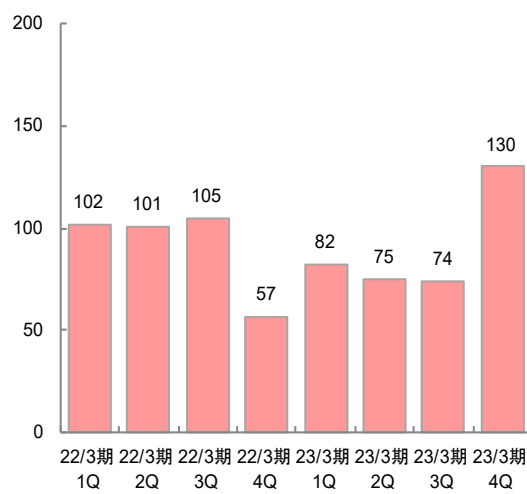
経常損益

(単位:億円)



当期純損益

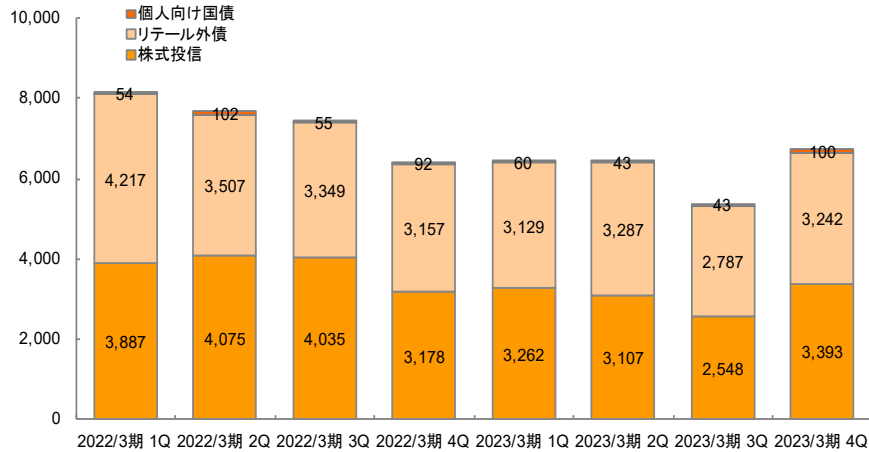
(単位:億円)



営業部門商品販売額

推移

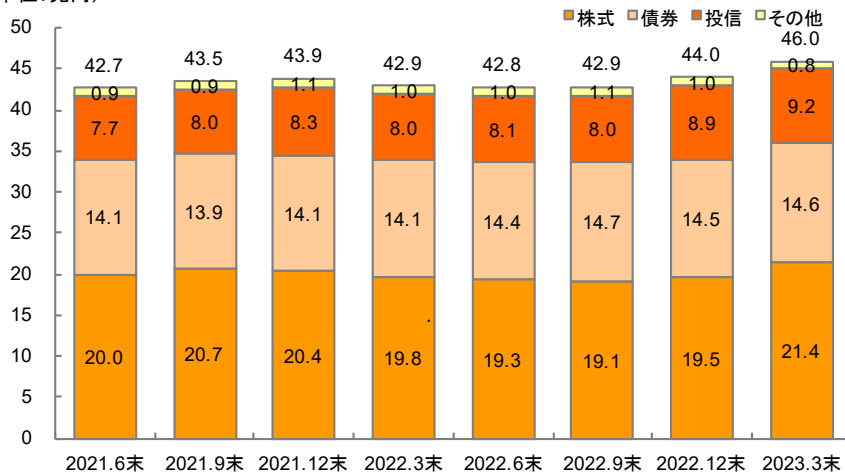
(単位:億円)



預かり資産推移

推移

(単位:兆円)



(四捨五入表示)

投資銀行業務 ～ リーグテーブル(2022年4月～2023年3月)

- 債券引受ではESG債をはじめとした多様な案件で主幹事を務め首位を獲得。M&Aアドバイザーは、モルガン・スタンレーとの協働によりクロスボーダー案件を中心に幅広い案件に関与。株式引受についても多数の案件で主幹事を務めるなど、投資銀行業務全体で高いプレゼンスを維持
 - 著名なメディア等からも高い評価
 - 「Asiamoney」誌より、「Best Corporate and Investment Bank」※¹を受賞
 - 「Euromoney」誌より、「Best Investment Bank in Japan」を受賞 ※²
 - 「Mergermarket」より、「M&A Financial Adviser of the Year」等を受賞 ※²
- ※¹ MUFGとモルガン・スタンレーの両社で受賞
 ※² MUFGとモルガン・スタンレーによる日本における証券合併事業(三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFG証券により構成)として受賞

債券(国内債+外債)総合シェア※¹

順位	証券会社	シェア (%)
1	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	20.9
2	みずほ証券	17.8
3	大和証券	15.2
4	野村證券	15.1
5	SMBC日興証券	5.8
6	JPモルガン証券	3.8
7	ゴールドマン・サックス証券	3.8
8	BofA証券	3.6
9	シティグループ証券	3.2
10	パークレイズ証券	1.9

国内外エクイティ総合シェア※²

順位	証券会社	シェア (%)
1	野村	29.2
2	大和証券グループ本社	24.1
3	三井住友フィナンシャルグループ	11.8
4	みずほフィナンシャルグループ	11.8
5	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	11.6
6	ゴールドマン・サックス	4.7
7	SBIホールディングス	2.5
8	JPモルガン	1.4
9	岡三証券グループ	0.7
10	東海東京フィナンシャル・ホールディングス	0.7

M&Aアドバイザー(取引金額ベース)※³

順位	アドバイザー	取引金額 (十億円)
1	野村	4,470
2	JPモルガン	3,933
3	UBS	3,917
4	みずほフィナンシャルグループ	3,472
5	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	3,043
6	三井住友フィナンシャルグループ	2,136
7	Crosspoint Advisors Inc	2,115
8	BofAセキュリティーズ	1,593
9	デロイト	1,236
10	ゴールドマン・サックス	1,054

※¹: 出所: 国内債はREFINITIV及び同社提供のDealWatchDBより三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成。普通社債、財投機関債等(高速道路債を含む)、地方債等の国内債主幹事リーグテーブルを集計。外債は企業開示情報、Dealogic、Bloomberg、IFR、Informaのデータを基にモルガン・スタンレーMUFG証券作成

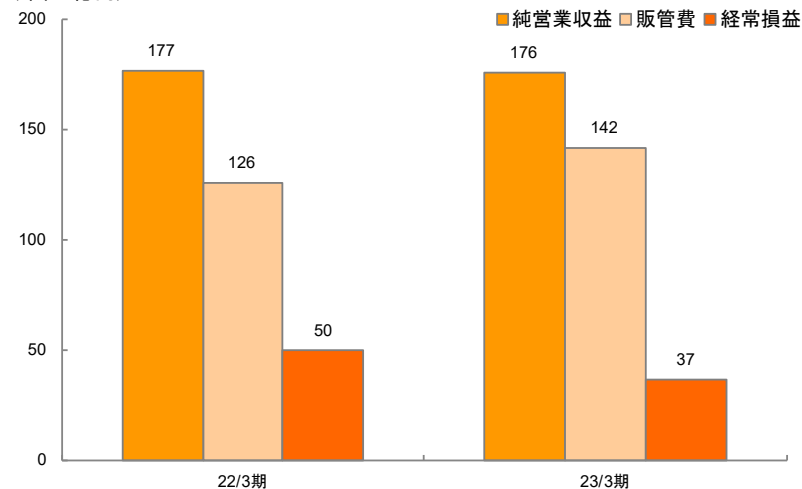
※²: 出所: REFINITIVより三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成
 三菱UFJモルガン・スタンレー証券には、日本企業による国内市場での株式引受案件におけるモルガン・スタンレーMUFG証券の引受分、日本企業による海外市場での株式引受案件におけるモルガン・スタンレーの引受分を含む

※³: 出所: REFINITIVより三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成
 日本企業が関わる公表案件(含、不動産取得案件)。三菱UFJモルガン・スタンレー証券にはモルガン・スタンレーがアドバイザーとなった案件も含む

auカブコム証券 年間業績推移

推移

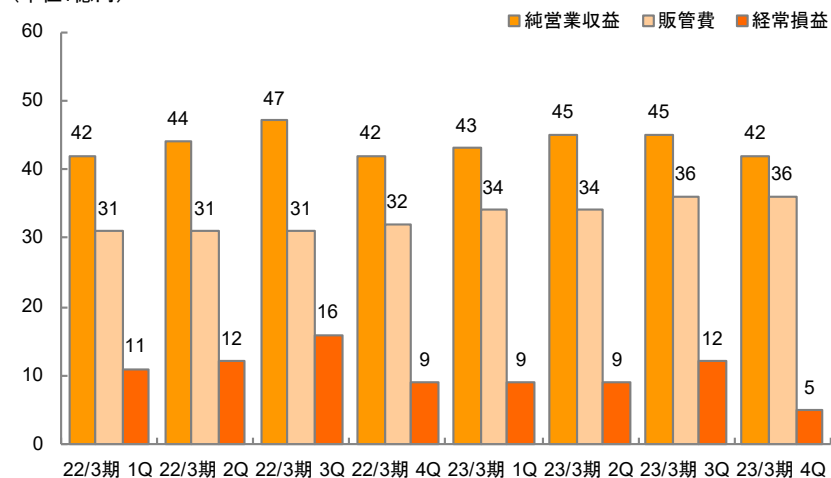
(単位:億円)



auカブコム証券 四半期業績推移

推移

(単位:億円)

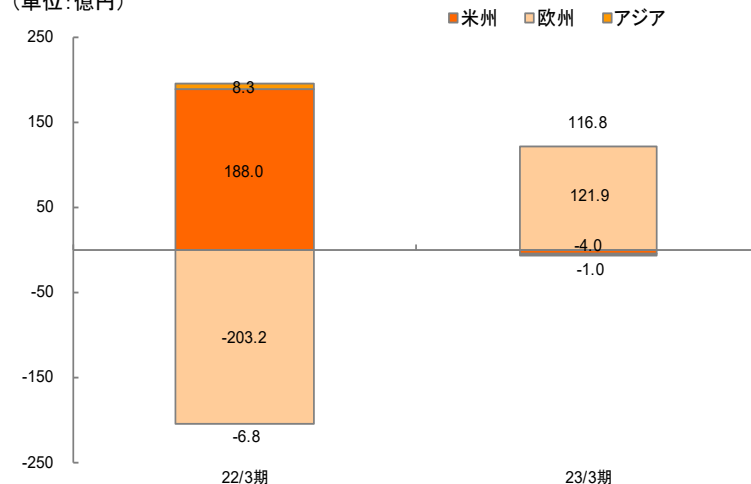


海外現地法人 年間業績推移

経常損益

(単位:億円)

※ MUSAを含む実質ベースで記載しております。

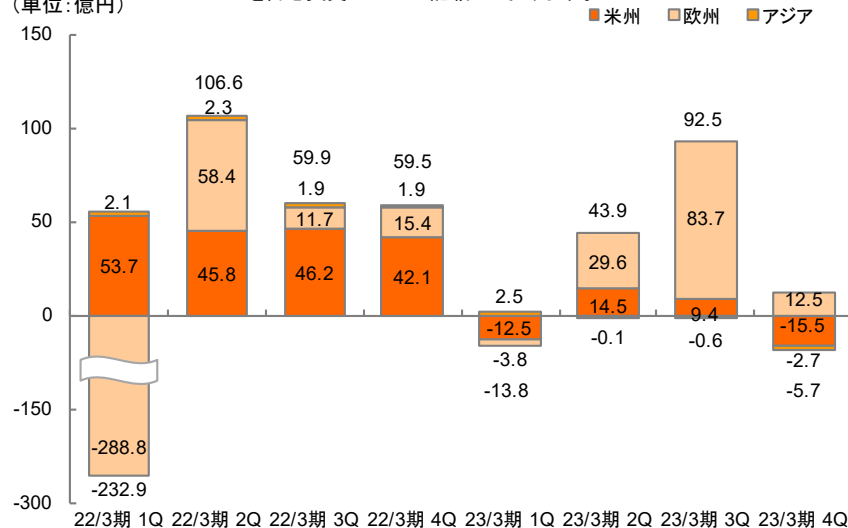


海外現地法人 四半期業績推移

経常損益

(単位:億円)

※ MUSAを含む実質ベースで記載しております。

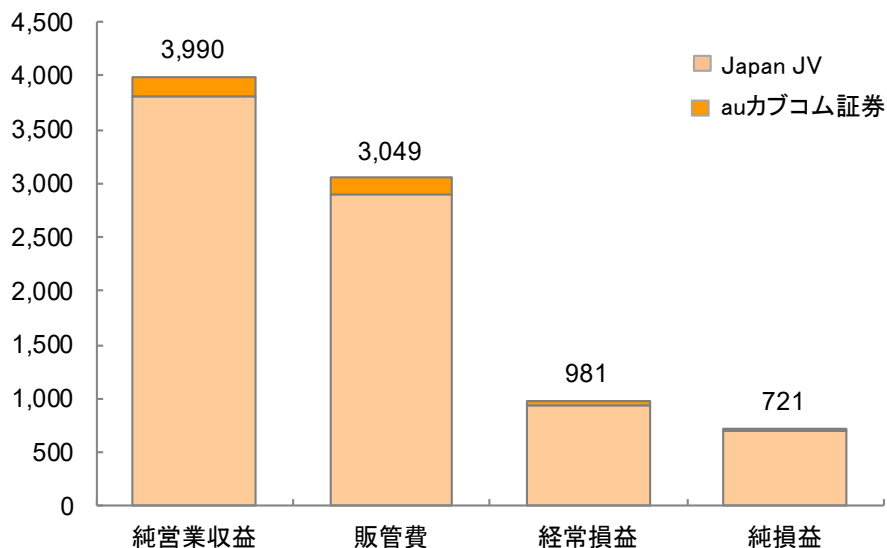


国内証券会社 業績

- 国内証券会社の純営業収益は、単純合算で約4,000億円を計上
これには、日本におけるモルガン・スタンレーとの証券ジョイントベンチャーの一つで、持分法適用関連会社であるモルガン・スタンレーMUFG証券（MSMS）の純営業収益も全額含まれている
- 『国内証券会社』は、モルガン・スタンレーとの証券ジョイントベンチャーである2社（Japan JV）とauカブコム証券の合計3社

年間の業績

（単位：億円）



※ 単純合算ベースで記載しております。

国内証券会社単純合算（単位：億円）	2023/3期
純営業収益	3,990
Japan JV	3,813
MUMSS	2,611
モルガン・スタンレーMUFG証券（MSMS）*	1,202
auカブコム証券	176
販売費・一般管理費	3,049
Japan JV	2,907
MUMSS	2,168
MSMS	738
auカブコム証券	142
経常損益	981
Japan JV	944
MUMSS	469
MSMS	474
auカブコム証券	37
純損益	721
Japan JV	692
MUMSS	363
MSMS	329
auカブコム証券	28

* モルガン・スタンレーMUFG証券は、持分法適用関連会社です。

外部格付

	R&I	JCR	Moody's	S&P	Fitch
--	-----	-----	---------	-----	-------

三菱UFJ証券ホールディングス

長期格付	AA-	AA	A1	A-	-
短期格付	a-1+ *	-	P-1	A-2	-

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

長期格付	AA-	AA	A1	A	A-
短期格付	a-1+ *	-	P-1	A-1	F1

MUFG Securities EMEA plc

長期格付	AA- **	AA **	A1	A	-
短期格付	-	-	P-1	A-1	-

MUFG Securities (Canada), Ltd.

長期格付	-	-	-	A	A-
短期格付	-	-	-	A-1	F1

MUFG Securities (Europe) N.V.

長期格付	-	-	A1	A	-
------	---	---	----	---	---

*CP格付

**MTNプログラム格付（優先債）

自己資本関連指標

自己資本規制比率(MUMSS)

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社の当期の自己資本規制比率につきましては、下記URLに掲載しております。

https://www.sc.mufig.jp/company/finance/cp_ratio.html



三菱UFJ証券ホールディングス

本資料は、2023年3月期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入または売却の勧誘または推奨を目的としたものではありません。本資料は、2023年4月28日現在のデータに基づき作成されており、本資料に含まれる財務情報等は、監査法人によるレビューの対象外です。本資料に掲載されている事実および見解は、本資料作成時点において当社が認識している事実および当該時点における当社の見解であり、これらの情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。その他、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。なお、本資料のいかなる部分についても、著作権その他一切の権利は当社に帰属しており、電子的方法を含め、いかなる方法または目的であれ、当社に無断で複製、配布、転送等を行うことが禁止されますので、この点をご了承の上、本資料をご覧ください。